

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-10C	13-038	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
Alcohol consumption and psoriasis: a systematic literature review. アルコール消費と乾癬：先行研究のシステマティックレビュー		
執筆者		
Brenaut E, Horreau C, Pouplard C, Barnetche T, Paul C, Richard MA, Joly P, Le Maître M, Aractingi S, Aubin F, Cribier B, Jullien D, Ortonne JP, Misery L.		
掲載誌		
J Eur Acad Dermatol Venereol. 2013 Aug;27 Suppl 3:30-5. doi: 10.1111/jdv.12164.		
キーワード		PMID
アルコール消費、乾癬、リスク因子、システマティックレビュー		23845150
要 旨		
<p>目的： 1980年代からアルコール消費と乾癬の関連について議論が頻繁になされてきたが、これまでこの分野におけるしっかりしたシステマティックレビューはなかった。本システマティックレビューの目的は一般集団よりも乾癬患者においてアルコール消費が広く認められるのか、アルコール消費が乾癬のリスク因子であるのかについて検証することである。</p> <p>方法： システマティックレビューのための文献検索は Medline と Embase、Cochrane データベースを用いて、「乾癬 (psoriasis) AND アルコール消費 (alcohol drinking) OR アルコール関連障害 (alcohol-related disorders)」という条件のもとでキーワード検索を実行した。さらに「乾癬 (psoriasis) AND リスク因子 (risk factor) OR 共存症 (comorbidity)」という条件を加えてキーワード検索を実行した。合計 911 件の英語文献と仏語文献が該当し、837 件は抄録を精査した結果除外対象とし、さらに 46 件も本文を精査した結果除外対象とした。</p> <p>結果： 合計 28 文献が対象になった。乾癬患者におけるアルコール消費と一般集団におけるアルコール消費の対比に関して 23 文献が該当し、18 文献で一般集団よりも乾癬患者においてアルコール消費が広く認められると結論付け、5 文献で結論付けなかった。3 つの研究において、過度の飲酒行為の罹患率をアルコール依存に関する質問票 (CAGE もしくは自己記入式アルコール抽出テスト (SAAST)) もしくは過度の飲酒に対する定量的な尺度を用いて比較を行っていた。これらの研究では過度の飲酒は一般集団よりも乾癬患者において広く認められた。その他の文献では消費されたアルコールの量と種類について検討された。11 の研究において一般集団よりも乾癬患者においてアルコール消費が広く認められた。その他の 4 つの研究では一般集団との比較無しに乾癬患者において過度のアルコール消費が認められたと示した。逆に 5 つの研究において乾癬患者の集団と一般集団間でアルコール消費に有意な差が無いと示した。アルコール消費の計測における不均質性 (heterogeneity) によりメタ解析を行うことができなかった。乾癬に対するアルコールのリスク分析については 5 つの研究のみが該当した。そのうちの 4 研究においてアルコールは乾癬のリスク因子であると示された。</p> <p>結論： 一般集団よりも乾癬患者においてアルコール消費は多い。しかしながらアルコール消費が乾癬に対するリスク因子であるというにはエビデンスが不十分である。</p>		